

＜第2回 学校アンケート 分析と考察＞

本校では、授業のユニバーサルデザイン化を研究課題にして、「主体的・対話的で深い学び」をキーワードにする授業改善に取り組んでいます。一方、特別の教科道徳科や総合的な学習の時間では、「いのちの学習」に重点をおき、自他の生命の大切さを考える時間を増やすようにしています。

1. 児童について

第1回の学校アンケートに引き続き、低学年高学年どちらにおいても、ほとんどの項目で、80%以上の子どもが「よくできている」か「大体できている」と回答していました。前回と同様に（1）「友だちと仲良く学校生活を送っている」（3）「きまりや約束をしっかりと守っている」（12）「相手の気持ちを考えて行動する」「（13）「人の「命」は何よりも大切なものであると思う」で、90%以上の子どもが「よくできている」か「大体できている」と回答していたのに加え、今回は、（2）「掃除や片づけを最後までする。」（9）「人の話をしっかりと聞く」においても90%以上の子どもが「よくできている」か「大体できている」と回答していました。

また、第1回の学校アンケートで課題としていた以下の2項目でも改善がみられました。

（5）「すすんで読書に取り組む」が、今回のアンケートでは、低学年高学年どちらにおいても、85%以上（前回は77%）の子どもが「よくできている」か「大体できている」と回答していました。秋の読書週間の取組や国語科や総合的な学習の時間に調べ学習で図書館を活用し、探究的な学習展開を設定した成果によるものと考えられます。これからも読書が、習慣づいていくよう指導の継続をしていきます。

（10）前回、「自分の考えや思いを話す」で「よくできている」か「大体できている」との回答は71%でしたが、今回の回答では76%と5%増えました。授業改善や授業形態の工夫、日々の学校生活の中で、学級になじんできたことが考えられます。これからも学級の実態に応じた授業形態の工夫による授業改善と学級づくりを進めてまいります。

これらのことから本校の子どもたちは、基本的な生活習慣や規範意識、人権感覚が育成され、身についていると考えられます。「あまりできていない」「できていない」と回答した子どもに寄り添いながら、今後も学校全体の合言葉である「みそあじ(身支度・掃除・挨拶・時間を守る)」の継続した指導を進めてまいります。また、毎月10日の「なかよしの日」の学習や「いのちの学習」を通して人権感覚を磨いたり、命の大切さについて考えたりすることについても継続していきます。

2. 教職員について

今回の教職員の回答でも、ほとんどの項目で80%以上が「よくできている」か「大体できている」と回答していました。また、どの項目においても「できていない」と回答した教職員はいませんでした。

前回、課題とした項目の（6）「自主的な家庭学習の習慣が定着するように、家庭学習の進め方を指導している」では、今回も、「あまりできていない」と回答した教職員がいました。前回同様、まだ、子どもたちが自主的に家庭学習をするまでには至っておらず、宿題等の課題を保護者の方にもご協力いただきながら、家庭学習の習慣が定着しつつあることが理由でした。引き続き、読み・書き・計算を中心とした家庭学習の大切さを子どもたちに伝え、家庭学習の定着を図っていきます。

3. 保護者について

今回も保護者の方の回答は、ほとんどの項目が80%以上「よくできている」か「大体できている」との回答でした。前回と同様に保護者の方の「よくできている」「大体できている」という回答率が高い項目は、概ね子どもたちの回答も「よくできている」「大体できている」となっています。やはり、ご家庭での声かけが子どもたちに反映されていました。（5）「すすんで読書に取り組むように働きかけている」この項目だけが「よくできている」か「大体できている」の回答が47%でした。進んで読書に取り組む子どもは、その楽しさを周囲の人々に伝えることでコミュニケーション力をつけたり、わかりやすく伝えることのできる語彙力や表現力が養われたりします。ご家庭でもお声かけをいただきますようお願いします。